絵本活用の可能性

―日本・韓国・台湾の絵本から－

A Study on the Possibility of Utilizing Picture Book
－From the Picture Books in Japan, Korea, and Taiwan－

林　鎮代*　　中西　一彦*　　濱田　格子*
ShizuyoHAYASHI　KazuhikoNAKANISHI　SadakoHAMADA

抄 録

本研究は、国際化社会に生きる子どもの育成における絵本活用の可能性を明らかにすることを目的に、基礎研究として日本、韓国、台湾の絵本の内容の比較を行った。取り上げた絵本は、日本語訳されている韓国と台湾の絵本、および日本の絵本のうち韓国または台湾で翻訳されているもの、各 20 冊前後である。日本の絵本は国際的に評価が高く、韓国、台湾、中国で多く翻訳されている。物語絵本のほか、生活絵本、科学絵本も多い。韓国の絵本は、儒教的な意識や教育的な意図が感じられるものが多い。台湾の絵本の日本語訳は多くはないが、様々なタイプの絵本が作られる自由さが感じられる。各国の差異から、絵本には、その国の子どもに託した希望が凝縮されていることが明らかとなった。今後の課題として、韓国の絵本に見られる規範性、台湾の絵本に見られる心の自由さが、どのように実際の場面で活用されているのか調査し、日本における絵本活用で、取り入れたい点や改良すべき点について研究していくことが望まれる。

１．はじめに

本研究の目的は、国際化社会に生きる子どもの育成における絵本活用の可能性を明らかにすることである。日常生活においてもますます国際化を深めている現代において、子どもに「生きる力」「コミュニケーション能力」「異文化相互理解力」等を育成することが求められている。絵本の活用も、それらを育成するための一方法として長く取り上げられてきている。しかし、その一方で今やネット環境が整い即時性が受容されるあまり、文字離れが進む傾向が止まらない。こうした実態は、子どもの育成や家庭生活、親子関係、コミュニケーション能力にも影響を広げていっている。そして、国際化・情報化の中でアジアの身近な国であり日本とも文化的に多くの共通性を持っていると思われる韓国、台湾も同じ変容を続けている。

本研究では各国の絵本の活用のあり方を調査し比較をしていく。そうすることで、各国での絵本に期待するものが明らかになるであろう。絵本への期待は各国の価値観とも関連し、総合的な文化が絵本という形を持って表出されると考えられる。絵本は各国の期待にあわせて作成されているはずであり、その結果として絵本の形態や内容、活用方法に差異が出てくると思われる。特に、日本、韓国、台湾は大陸からの文化を共有しながらそれぞれの文化を熟成させた国であり、似ていながら異なる点に高い関心が持たれる。その各国の差異の意味を探り考察する中で、日本の絵本活用に欠けているもの、さらに検討すべきものを考察していきたい。そうすることで、「異文化間の相互理解」「絵本の特性としてのコミュニケーションツール性」「生きる力」の一つ一つを発展させることができる。具体的には、コミュニケーションツールとしての媒体を他に変えたり、文字離れの研究としたり、子育て支援と繋げる事も出来たりと、絵本を通して様々に結合や創造へと発展していくことも期待できる。

今回は、その第１段階として各国の絵本の活用方法の実際を調べ考察する中で絵本の可能性を探っていく。こうした視点から絵本の研究を見ると、絵本自体の研究は多くあり韓国や中国・台湾等

＊　関西国際大学教育学部　　教育総合研究所学内研究員

のそれぞれの絵本研究もなされている。松村ら[1)]は読み聞かせ時の子どもの反応から子どもの好みを探ろうとし、今井ら[2)]は日本と台湾の絵本の読み聞かせ方法の比較をした。しかし、日本・韓国・台湾の異文化間の絵本を本研究のような視点で比較した研究はまだ報告されていない。保育、幼児教育に係わる中で、文字離れの傾向の強まった中で育つ子どもは「生きる力」「コミュニケーション能力」「異文化相互理解力」などが阻害されている実情が多く報告されている。乳幼児期から絵本と係わることは極めて重要であり、今回はまず基礎研究として各国の絵本に付いて調査して比較を行っていく。

２．日本・韓国・台湾の絵本

日本・韓国・台湾の異文化間の絵本を比較するにあたり、各国の絵本を分類することで、それぞれの国で絵本はどのような内容が重要視されているか、またどのような形で表現されているか等が明確になり、先に述べた絵本活用の方向性が示されるものである。絵本の分類については、様々な方法がある。

（１） 研究の中の絵本の分類

絵本の分類については藤本[3)]の研究がある。その研究の中では、絵本の「絵」と「ことば」から分類したものであり、次の 5 人の分類について述べている。

① ジョゼフ・H・シュワルツ（Josepf H. Schwarcz）の 9 分類法
- （a） 合同する絵本
- （b） 同化する絵本
- （c） 詳述する絵本
- （d） 拡大（増幅）する絵本
- （e） 拡張（延長）する絵本
- （f） 相補する絵本
- （g） 交互する絵本
- （h） 逸脱する絵本
- （i） 対位する絵本

② ジョアンナ・ゴードン（Joanne Golden）の 5 分類法
- （a） テキストと絵が対照的であるもの（ある種の余剰を作り出す）
- （b） テキストが、絵に説明を頼っているもの
- （c） イラストレーションが、テキストを豊かに詳しく説明するもの
- （d） テキストが主に語りを担い、イラストレーションが特定の効果を発揮するもの
- （e） イラストレーションが主に語りを担い、テキストが特定の効果を発揮するもの

③ ターバン・グレゲルセン（Torben Gregersen）の 4 分類法
- （a） 提示する本　絵による辞書（図鑑もの一物語はなし）
- （b） 絵が物語る本　ことばがないか、ことばは数語のみ使用
- （c） いわゆる絵本、あるいは物語絵本　テキストと絵は同等に重要
- （d） 挿し絵本　テキストが別に（先に）存在する

④ クリスティン・ホールバーグ（Kristin Hallberg）の 2 分類法
- （a） 挿し絵本
- （b） 絵本

⑤ ユリ・シュルヴィッツ（Uri Shulevitz）の 2 分類法
- （a） 物語絵本（a story book）
- （b） 純粋絵本(a true picture book)

（２）保育現場の中の絵本の分類

日本の保育現場における絵本の分類では、主に次の 7 つの分類法が見られた。

② 作者別に分類

絵本の作者別に分類する。書店や図書館でこの分類方法をとっているところも多く見る。ある作者について、どのような作品があるかが調べやすい。

③ 対象年齢別に分類

絵本の対象年齢別に分類する。特定の年齢に読ませたい絵本がわからないときには便利である。教材カタログにもよく見られる分類方法である。しかし、１冊の絵本でも読み取り方によって幼児から大人まで幅広く楽しむことが出来るとの認識が広まってきたことから、絵本に対象年齢の表示をなくしたものが一般的となってきている。

④ 題名別に分類

絵本の題名で、あいうえお順等に分類する。題名の解っている絵本を探すときに便利であり、図書館でもこの分類をしているところが多くみられる。

⑤ 主題別に分類

「死」「宗教」など特定のテーマによって分類する。研究資料とする場合に便利であるが、通常は使われず一般的な分類方法とは言えない。

⑥ 内容別に分類

「しつけ」「行事」「仕掛け絵本」「物語」「科学」など、内容によって分類する。内容の項目は様々であるが、項目名で内容がある程度理解することが出来るのが特徴である。

⑦ 出版社別に分類

出版社別に分類する。教材カタログに良く見られる分類方法である。

⑧ 大きさ別に分類

絵本の大きさによって分類する。小規模な図書館では、無駄なスペースが省けて便利な分類と言えよう。

（３）本研究における絵本の分類

本研究では、日本・韓国・台湾とそれぞれ文化事情の異なる３カ国の絵本を取り上げていることから、先述の絵本の分類の種類の中から、内容が解りやすく比較のし易い“⑤内容別に分類”が適切であると考えた。内容の項目については、一般的に絵本の種類を網羅しており本研究を理解しやすいと考えられた下記の７つとした。

① 「もの」の絵本

身近にあるもの（乗り物・動物など）を題材とした絵本

② 生活絵本

日常の生活や季節行事、遊びを描いた絵本

③ 物語絵本

創作童話の絵本

④ 昔話絵本

昔話や民話を再話した絵本

⑤ 科学絵本

動物・植物・自然などを題材として、観察力などを育てる絵本

⑥ 詩・うたの絵本

詩・うたの言葉や楽譜が載っている絵本

⑦ 仕掛け絵本

飛び出したり、動いたりといろいろなしかけがある絵本

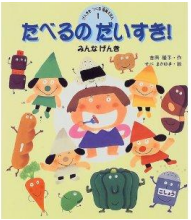
（４）日本・韓国・台湾の絵本[4）5）6）]

今回の研究資料である日本、韓国、台湾の絵本すべてに、この７つの分類項目全てが揃っているわけではない。また、１冊の絵本に複数の項目が含まれていてどれか一つだけを選んで分類することが難しいと考えられた絵本もあった。今回の分類においては、絵本に含まれた項目のうち本研究にもっとも関わりが強いと考えた項目を中心に分類をすすめた。韓国と台湾の絵本を選択する際には、内容理解のために日本語訳がされていることが条件となった。全ての国の条件を同等にするために、日本の絵本の選択も韓国と台湾に翻訳されているものを中心に取り上げた。翻訳絵本の発行数は各国毎に異なるが、約 20 冊程度をめどに選択した。

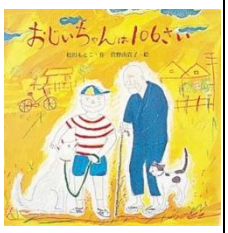
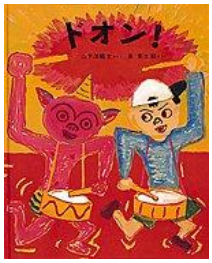
① 日本の絵本[7)]

日本の絵本は外国においても評価が高く、翻訳、出版されている作品も非常に多い。中でも最も多く翻訳されている国は韓国であった。2 位は台湾であり、3 位は中国となっている。ここでは韓国、台湾、中国で翻訳された作品を中心に取り上げた。

日本の絵本

NO	種類	絵　　本	題・発行・作者	内　　容	特　　徴
1	もの		「くだもの(年少版こどものとも　28号)」1979　福音館書店　作:平山和子	すいか、もも、ぶどう、なし、りんご、くり、かき、みかん、いちご、ばなな。写実的果物の絵の赤ちゃん絵本。	写実的な絵と、最小限の言葉による赤ちゃん絵本。
2	生活		「遊び図鑑:いつでもどこでもだれとでも」1987　福音館書店　文：奥成達　絵：ながたはるみ	屋内、屋外、野原、山、川、海。ひとり、2 人、多人数。昔の遊びから現代の遊びまで遊びの数々をイラストで紹介。	さまざまな遊びの方法を教える図鑑。
3	生活		「いないいないばあ」1967　童心社　文：松谷みよ子　絵：瀬川康雄	「いない いない ばあ」と赤ちゃんに語りかける。大人の赤ちゃんへの働きかけを引き出す赤ちゃん絵本。	「いないいないばあ」絵本の中で最も知られた本。
4	生活		「いいおへんじできるかな(あかちゃんのあそびえほん6)」1992　偕成社　著・画：木村祐一	名前を呼ばれて、返事をする繰り返し。コミュニケーションの始まりを楽しめる、応答遊びの赤ちゃん絵本。	返事のやりとりを楽しむ赤ちゃん絵本。
5	生活		「たべるのだいすき!　みんなげんき」1997　金の星社　作:吉田隆子　絵：せべまさゆき	元気に生きていくために、食べることがいかに大切かを伝える食育絵本。食べ物をその栄養や働きによって、赤・緑・黄色・白の 4 つの色に分けて解説。	栄養について幼児から学べる食育絵本。
6	生活		「はさみのつかいかた」1994　ポプラ社　著：小岩俊	はさみの持ち方、わたし方、うすい紙や厚い紙、丸い紙の切り方など、はさみの使い方をわかりやすく紹介。	はさみの扱い方を教える生活絵本。

7	生活		「きゅうきゅうばこ（かがくのとも215号）」1987　福音館書店　文:山田真　絵:柳生弦一郎	ころんだり、やけどをした時、どうすればいいか。子どもの応急医療の絵本。	応急手当を教える絵本。
8	物語		「おつきさまこんばんは」2001　福音館書店　作:林明子	お月さまや、お月さまの前を横切る雲と話をするように描かれている赤ちゃん絵本。	就寝前に読まれている赤ちゃん絵本。
9	物語		「りんごがドスーン」1981　文研出版　作・文・絵：多田ヒロシ	野原に大きなりんごが落ちてきた。もぐらがやってきて「むしゃむしゃおーうまい」。りすも、きつねもみんなおなかいっぱい。	むしゃむしゃ食べる、繰り返しを楽しむ話。
10	物語		「キャベツくん」1980　文研出版　文・絵：長新太	ライオンやクジラがキャベツを食べるとどうなるか。キャベツくんとブタヤマさんの愉快なナンセンス絵本。	不思議で愉快な長新太の世界。
11	物語		「まあちゃんのながいかみ」1989　福音館書店　作:たかどのほうこ	髪の短いまあちゃんが、友達に髪をのばすよと言い、「へえ、どれくらい」と聞かれて想像の世界が広がっていく。	どんどん広がる空想の世界を楽しむ話。
12	物語		「すてきなずぼん（こねこちゃんえほん1）」1982　金の星社　作・絵：いもとようこ	毛糸のズボンをはいて、遊びに出かけたこねこちゃん。ところがそれは、まだあみかけだったので、みんなに見せて歩くうちにほつれて短くなっていく。	こねこちゃんシリーズの絵本。

13	物語		「おにたのぼうし」1969　ポプラ社 文：あまんきみこ 絵：岩崎ちひろ	節分の夜、豆まきの音がしない一軒家に飛び込んだ鬼の子のおにたは、病気の母を看護する少女に出会う。小学３年生の国語教科書に採用された物語。	鬼と少女の物語絵本。小学生以上対象。
14	物語		「ねずみくんのプレゼント(ねずみくんの絵本 20)」2004 ポプラ社　作:なかえよしを　絵:上野紀子	ねずみくんはねみちゃんに、おおきなふうせんをプレゼント。ところがそのふうせんは、だんだんとしぼんでしまう。	ねずみくんシリーズの絵本。空間を生かした絵。
15	物語		「はじめてのおつかい」1977　福音館書店　作:筒井頼子 絵：林明子	子どもが経験するはじめてのおつかい。どきどきしながらお手伝いをやりとげて、自分で成長を実感する。	子どもの日常生活を描いた物語。
16	物語		「おしゃべりなたまごやき」1972　福音館書店　作:寺村輝夫　画：長新太	たまご焼きが大好きな王さまのユーモラスなお話とダイナミックな絵。	愉快な物語と長新太の特徴的な絵がマッチした絵本。
17	物語		「おじいちゃんは 106 さい」1999　ポプラ社　作:松田もとこ　絵:菅野由貴子	106 歳のおじいちゃんを通じて、家族のつながり、生と死を考える。	生命について考える物語絵本。
18	物語		「ドオン！」1995 文：山下洋輔 絵：長新太	いたずら者こうちゃんと、オニの子ドンがドンドンと太鼓をたたく。お母さん、お父さん、犬、猫、牛も登場して、たいこの音がいっぱいに広がるような楽しい絵本。	音楽家らしい、音やリズムを感じる絵本。

19	昔話		「ももたろう(世界傑作絵本シリーズ)」1965　福音館　文：松居直　絵：赤羽末吉	「おじいさんは芝刈に、おばあさんは洗濯に」日本の代表的な昔話。	桃太郎の絵本の中で、長く親しまれた絵本。
20	昔話		「にんじんさんがあかいわけ」1989 童心社　作:松谷みよ子　画:ひらやまえいぞう	にんじんさんと、ごぼうさんと、だいこんさんが、いっしょにおふろに入ると。人参が赤い理由がわかる昔話絵本。	野菜の色の違いを、入浴時間で説明する民話。
21	科学		「タテゴトアザラシのおやこ」2001 ポプラ社　文:結城モイラ　写真:福田幸弘	厳しい自然の中で生きるタテゴトアザラシの生態。出産から子離れまでを写真で紹介。	写真でアザラシの生態を教える。
22	科学		「うちにあかちゃんがうまれるの(からだとこころのえほん 9)」2004　ポプラ社　文:いとうえみこ　写真:伊藤泰寛	あかちゃんの誕生と、それを迎える家族の表情を、6 歳の少女の視点で描いた写真絵本。	きょうだいが生まれるときに、上の子に読みたい絵本。
23	科学		「あしのうらのはなし」1982　福音館書店　文・絵：柳生弦一郎	馬、ゴリラなど動物から人間まで、さまざまな足の裏が登場。絵本の中で遊びながら足の裏の進化と機能を考える。	体の機能や進化について学ぶ科学絵本。
24	科学		「1 と 0 の世界（はじめて出会うコンピューター科学 1）1990　岩波書店　文：徳田雄洋　絵：村井宗二	2 進法で数を表すと、しっかり屋、うっかり屋、へそまがり屋の 3 人を組み合せるだけで、足し算をする機械がでる。ター君とアキちゃんの兄妹が、宿題や遊びをきっかけに、いろいろな疑問にぶつかり、ふしぎな体験をする。コンピュータの基本的な考え方を学ぶ絵本。	数学の概念を学べる絵本。

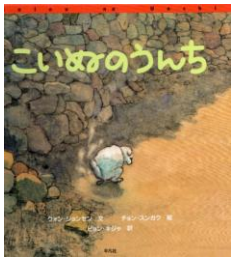
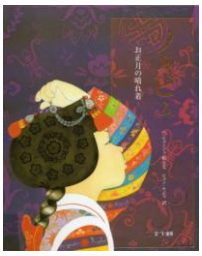
25	詩・うた		「キリンさん　（まど･みちお詩のえほん２）」1998　小峰書店　詩:まどみちお　絵：南塚直子	「ぞうさん」「キリンさん」「テントウムシ」「チョウチョ」など動物をテーマにしたまどみちおの詩と銅版画の絵本。	まどみちおの詩の絵本。
26	仕掛け		「ノンタンいないいないばびぶべぼ（ノンタンのしかけ絵本 1)」1997 偕成社　監修:キヨノサチコ	韓国で人気の「ノンタン」シリーズの、仕掛け絵本。	ノンタンのシリーズ絵本。

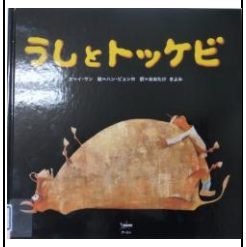
② 韓国の絵本[8)]

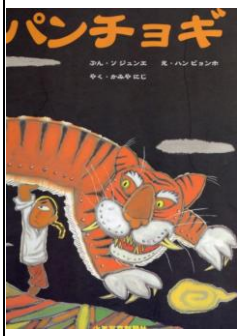
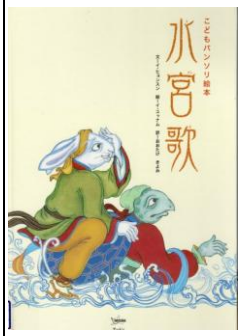
韓国は地理的にも日本に近く、文化的にも理解しやすい内容が多く見られる。日本の鬼と良く似たトッケビが登場する絵本も多く、親しみやすい。ここでは、そうした絵本の中から韓国の特徴を表して項目的にも多様性に富むように配慮して選んだ。

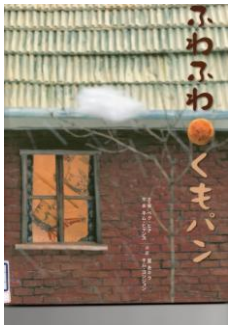
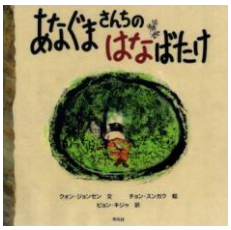
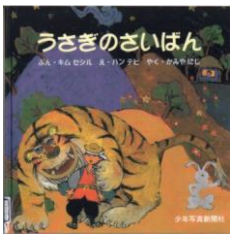
韓国の絵本

NO	種類	絵　　本	題・発行・作者・訳	内　　容	特　　徴
1	物語		「ヨンイのビニールがさ」2006　岩崎書店　作:ユン・ドンジェ　絵:キム・ジェホン　訳:ピョン・キジャ	雨の日の登校途中に、寝ている物乞いを見た小学生のヨンイ少年。からかったり「げんの悪い」と避けたりする人をよそに、ビニール傘をさしかけていく。雨上がりの下校時に、その場に立てかけてあった傘を「持っていってもよかったのに」と、持ち帰る。	作者(1958 年生)が高度経済成長下の 1980 年に発表した詩の絵本化。
2	生活		「ソリちゃんのチュソク」2000　セーラー出版　作・絵：イ・オクベ　訳：みせけい	チュソク（旧歴のお盆）に田舎に帰ったリリちゃん一家。バスターミナルはチュソクに行く人で混雑している。田舎のチュソクでは、親戚中で先祖にお供えをするチャリエ（茶礼)、墓参り、盆踊りをする。町の家に帰り、民族衣装を脱ぎ日常が始まる。	田舎の伝統行事の紹介と推奨

3	物語		「かぜ　ひいちゃった日」2004　岩崎書店　作・絵：キム・ドンス　訳：ピョン・キジャ	お母さんが新しいダウンを買ってくれたけれど、肩から１枚羽が飛び出していた。眠るとたくさんのアヒルが「羽がなくて寒いよ」といったので、１枚ずつ体にさしてあげた。夢の中でかけっこやそり遊び、かくれんぼをしていたが、くしゃみで目が覚めた。布団をかけずに寝たからと言われたけれど、ダウンの羽をみんなあげたからなんだよ。でも、ある日風が吹いたら僕のダウンから羽が１枚飛んでいった。羽はみんなあげたはずなのに。	優しい心、分け合う気持ちをファンタジーな話にしている。
4	物語		「こいぬのうんち」2000　東京印書館 作：クオン・ジョンセン 絵：チョン・スンガク 訳：ピョン・キジャ	道に犬がうんちをした。雀が「きったねえ」というと、ウンチは悲しくなった。道にこぼれた土くれは、農家に拾われ役に立つという。春になると、近くのタンポポがうんちは雨に溶けて肥しとなることで、きれいな花を咲かせるとうんちに話す。うんちはタンポポの根元で溶けて花を咲かせる。	どんなものも、役に立つことはできる。自己犠牲と自尊心。
5	生活		「ソルビニ　―お正月の晴れ着―」2007　セーラー出版　作・絵：ペ・ヒョンジュ　訳：ピョン・キジャ	少女の美しい正月の晴れ着の説明と着方をイラストで示している。	伝統行事と衣服文化の紹介。
6	物語		「あかてぬぐいのおくさんと７にんのなかま」2010　福音館書店　作・絵：イ・ヨンギョン 訳：かみやにじ	裁縫上手な赤手ぬぐいの奥さんと針、糸、物差しなど７つの裁縫道具の仲間が『自分が１番』と競う。しかし、どれも大切な道具であることが分かる。	みんなそれぞれ自分の大切な役割があり、どれが欠けても仕事はできない。
7	物語		「あわ一つぶでよめをもらったわかもの」2006　少年写真新聞社 作：イ・ミエ　絵：イ・スヨン　訳：かみやにじ	田舎の怠け者は若者になっても収穫はない。若者は粟を一粒持って旅に出る。泊めてもらった家の鼠が粟を食べ、その鼠を貰い、次には鼠を食べた猫をもらう。日本の「わらしべ長者」のように、最後は金持ちの娘を妻にもらうことができた。	知恵と意欲で運命を切り開く。

8	昔話		「うしとトッケビ」2004　アートン 作：イ・サン　絵：ハン・ビョンホ 訳：おおたけきよみ	トッケビ（1種の鬼のような存在）の子どもが怪我をして、帰れなくなる。トルセの飼っている牛の腹に2カ月入れておいてくれたら、10倍の力をつけてやるという。10倍の力をつけた牛の働きで、トルセはお金持ちになる。ところが、牛の中で大きくなりすぎてトッケビの子どもは出られない。牛にあくびをさせたら100倍の力をつけると言うが、なかなか牛はあくびをしない。待ちくたびれたトルセがあくびをすると牛もつられてあくびをする。100倍の力持ちの牛をつれてトルセは「困っているものは助けなきゃ」と言った。	人を助けると、きっと良いお返しが来る。
9	物語		「さびしがりやのトッケビ」2006　平凡社　作・絵：ハン・ビョンホ　訳：藤本朝巳	シムシミというトッケビは淋しがりやで村に遊びに行く。怖がって誰も遊んでくれず、シムシミはヤギや牛、アヒルを捕まえる。しかし、鶏が鳴いて他の動物が騒ぎ、シムシミも騒ぐ鶏に引っかかれたりつつかれてたりして逃げ出す。シムシミが鶏を苦手なのを知って、村人は鶏を集めた小屋に誘った。それからは、シムシミが村に来ようとすると村人が鶏の鳴き真似をするので、シムシミは一人さみしく山奥で暮らしているそうだ。	困ることがあったら、知恵を使おう。
10	昔話		「トッケビのこんぼう　はじめのはなし―つづきのはなし」2003　平凡社 作：チョン・チャジュン　絵：ハン・ビョンホ　訳：藤本朝巳	初めの話は前から、続きの話は絵本後ろから上下さかさまにして読む。 初めの話：正直な若者は、山でハシバミの実を「お父さんやお母さんに」と拾う。暗くなり泊ろうとした山小屋は鬼の住処だった。鬼がこん棒を振って金貨を出している時、おなかのすいた若者がハシバミの実をかじると雷の音がした。驚いて逃げた鬼のこん棒を持ち帰り、若者は金持ちになった。続きの話：その話を聞いた欲張りな若者は、自分も山に出かけた。ハシバミの実を「これはおれのものだ」と拾いながら山小屋に来ると、鬼がいる。ハシバミの実を食べると「シー」という声になり、鬼に散々殴られた。	昔話の再話。親孝行には良いことが欲張りには悪いことが起こる。

11	昔話		「パンチョギ」2010 少年写真新聞社 作：ソ・ジュンエ 絵：ハン・ビョンホ 訳：かみやにじ	子どものいない夫婦が神様のお告げで井戸の鯉を３匹食べようとした。しかし、１匹は猫に半分食べられてしまう。やがて、三つ子の男の子を産むが、一人は目も手も足も１本しかなかった。兄二人は成長して、役人の試験を受けるため都に行く。弟も行こうとするが兄に邪魔にされ、岩や木に縛られるがその度に脱け出して後を追う。虎もやっつけた弟は虎の毛皮を持って、金持ちの家に行く。金持ちは「虎の毛皮を賭けて将棋をしよう。負けたら、娘をやろう」と誘う。弟は将棋に勝つが、金持ちは見張りを立てて娘を守ろうとする。３日目の夜、眠った見張りのすきを突いて弟は娘を連れだし、幸せに暮らしましたとさ。	障害があっても、知恵と意欲で運命を切り開く。
12	科学		「パパといっしょに」2004　アートン 作：イ・サンクォン 絵：ハン・ビョンホ 訳：おおたけきよみ	文章がなく、全て父と娘の会話となって会話の文字が色分け（父＝黒字、娘＝赤字）されている。パパと一緒に山に出かけた少女ソリは、ドングリやシジュウガラなどのいろいろな自然に出会いながら頂上に着く。	山の自然について語り、関心を持って気づかせる。
13	生活		「きょうはソンミのうちでキムチをつけるひ！」2005 精興社　作：チェ・インソン　絵：パン・ジョンファ 訳：ピョン・キジャ	ソンミの家の裏に小さな鼠の家がある。ソンミの家のキムチの付け方を鼠がまねて作る。文字の大きさと色を変えて、ソンミの付ける様子と鼠のまねる様子が繰り返される。	キムチの作り方と種類、田舎の互いに助け合う伝統的な風習を紹介している。
14	昔話		「水宮歌」2004　アートン　作：イ・ヒョンスン　絵：イ・ユッナム　訳：おおたけきよみ	「子どもパンソリ（音楽で語られる口承文芸のひとつ）絵本」で、ＣＤ付き。竜王が病気になり、神仙が「兎の肝を食べれば治る」と告げる。亀が使いとなり、兎を騙して竜宮に連れ帰るが、それと知って口のうまい兎は「自分の肝は、桂の木にぶら下げてきた」と言い逃れる。亀は竜王に「今腹を裂いて肝を取らねば、２度と肝は手に入りません」と言うが、兎は「亀の分際で何を言う。ここで私を殺せば竜王はすぐに死ぬぞ。」と、亀にどなった。竜王はすっかり騙されて「すぐに兎を戻せ。」と命令する。山に帰った兎はもう戻ってはこなかった。兎はその後、月に上り杵で薬を作っているが、亀は姿を見せないのでどうしているかわからない。	騙されないように気をつけなさいという教訓。

15	物語		「ふわふわくもパン」2006　小学館 作・絵：ペク・ヒナ 写真：キム・ヒャンス　訳：星あキラ、キム・ヨンジョン	雨の朝、猫の兄弟は木の枝に掛っていた雲を持ち帰り、ママにパンに焼いてもらうことにした。「雨の日は道路が混むんだ」と、焼きあがりを待たずに会社に出かけたパパにパンを届けようと、兄弟はパンを持ったまま空に浮かんだ。満員バスの中でパンを食べたパパも浮かんで、遅刻せずに空から会社に行った。帰り道、雨の止んだ屋根の上で食べたパンは美味しかったよ。	ファンタジー。韓国の働く会社員の実態の垣間見られる。
16	物語		「うさぎのおるすばん」2003　平凡社 作・絵：イ・ホベク 訳：黒田福美	ベランダで飼われているうさぎが、家族の留守の一晩に家に入り込む。お化粧したり、食べながら漫画映画を見たり楽しいひと時を満喫し、翌朝ベランダに帰る。部屋には兎の落し物（糞）がある。	子どものしてみたい数々の行為を、うさぎになって楽しませている。
17	昔話		「しろいは　うさぎ」2007　福音館書店　作・絵：クォン・ユンドク　訳：チョン・ミヘ	「しろいはうさぎ　うさぎはとぶよ」と言葉のしりとりとなっている済州島のわらべ歌。歌詞に合わせた絵でつづられた絵本。済州島の男は漁でなくなるものが多く、絵の中で墓である岩が優しく少女を見守る。	言葉のしりとりの済州島のわらべ歌を絵本にしたもの。
18	物語		「あなぐまさんちのはなばたけ」2001　平凡社 文：クォン・ジョンセン　絵：チョン・スンガク　訳：ピョン・キジャ	つむじ風に吹き飛ばされたアナグマおばさんは、市場や学校を見る。学校の歌壇に感激して、家にも花壇を作ろうとおじさんに土を掘ってもらう。そこで、あちこちにいっぱいお花があることに気付く。	日本との違いを説明している。1 里＝16Ｋｍで日本の 1 里の 1/10 など
19	昔話		「うさぎのさいばん」2005　少年写真新聞社　文：キム・セシル　絵：ハン・テヒ　訳：神谷丹路	若者が穴に落ちた人食い虎をかわいそうに思い助けた。ところが虎は若者を襲おうとする。松の木や牛は「人間はひどい」とトラの味方をするが、兎は「どれ、初めから調べよう」と、虎を穴に返し「恩知らずめ」と懲らしめる。	恩に報いることの大切さを知らせている。

20	物語		「かわべのトンイとスニ」2007　小学館　作：キム・ジェホン　共訳：星あキラ、キム・スヨン	留守番をする兄と妹は、川辺の石を鳥や恐竜に見立てる。兄の小さい妹への優しさが描かれている。	男であり年長者でもある兄が、頼もしく妹を守る韓国での家族のあり方がよくわかる。
21	昔話		「くらやみからきたサプサリ」2005　アートン　文・絵：チョン・スンガク　訳：大竹聖美	大昔、天の暗闇の国の王様は明るい火を望んでいた。一匹の勇敢な犬は王様に褒美を約束され、火を取りに行く。犬は玄武、青龍、白虎、と戦い、太陽の赤と月の青の光を持ち帰るが、王様は犬を恐れて崖に捨てさせる。暗闇の国の光は消え、犬は朱雀に助けられ光の国に来る。犬は青と赤のサプサリ（韓国固有の犬）を産み、人から愛されるようになった。	約束を破ったり、恩に報いないものは暗闇に落とされるという勧善懲悪のお話
22	物語		「ヘチとかいぶつ」2004　アートン　文：チョン・ハンプ　絵：ハン・ビョンホ　訳：大竹聖美	ヘチは天に住む一角獅子のような姿の正義の神。地底に住む怪物４兄弟は、太陽を盗んで悪さをする。ヘチは怪物と次々と戦い太陽を取り戻した。	韓国独特の戦い方が楽しい。パクチギ：突きっこ。トンチキ：投げっこ。プンギ：吹きっこ。ムンチギ：丸めっこ
23	生活		「マンヒのいえ」2007.6.　30　セーラー出版　文・絵：クォン・ユンドク　訳：みせ　けい	マンヒ少年が引っ越しした家は、お花がいっぱいある。韓国の家の造りや生活を紹介している。	アンバン：座敷
24	物語		「蚊とうし」2004.7.31　株式会社アートン　文：ヒョン・ドンヨム　絵：イ・オクベ　訳：大竹聖美	ハエは牛の血を吸って、尻尾ではたき落とされました。蚊は威張って、牛をからかい血を吸いますが、とうとうつぶされてペッチャンコになってしまいました。	いい気になっていると、ひどい目にあうという諫め。

25	物語		「石をとらえたお役人」2005　少年写真新聞社　文：チャ・ミジョン　絵：ハン・チャンス　訳：かみやにじ	石仏の傍らで居眠りをした絹商人は、絹巻物を盗まれてしまう。それを聞いた役人は、石仏をとらえて責める。それを見た村人が笑うと、罰として絹巻物を一つ納めさせた。それは盗まれた品だった。泥棒は捕まり、めでたしめでたし。	とんち物語。
26	物語		「山になった巨人」―白頭山ものがたり」1988　福音館書店　作・絵：リュウ・チェスウ　訳：イ・サンクム、まついただし	国が生まれた時、月も太陽も二つあった。それを一つにしたのは白頭巨人で、黒頭巨人は妬んで戦争になりました。黒頭巨人は龍に白頭巨人は白虎になって戦い、白頭巨人が勝った。それからずっと白頭巨人は白頭山となって国を守っている。	昔の伝統説話からモチーフをもらって作られた創作童話

③　台湾の絵本

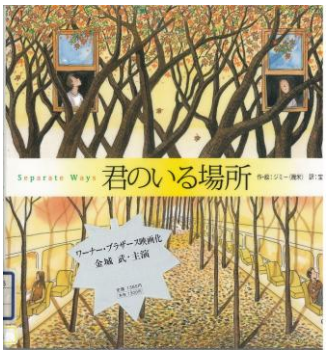
日本の絵本が多く翻訳されている国の第 2 位は台湾である。張桂娥[9)]　によれば、2006 年 12 月現在までに 1000 点を超える作品が出版されているという。逆に台湾の絵本で日本語に翻訳された作品はあまり多くはない。これも張桂娥によれば、2006 年末現在で 19 冊の翻訳・出版であるとのことである。そのため、日本、韓国に比べて同数の絵本を選択することは難しく、今回は 16 冊の収集にとどまった。

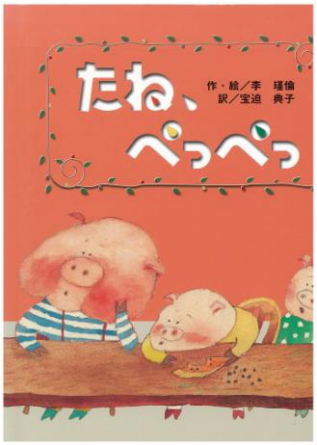
台湾の絵本

NO	種類	絵　　本	題・発行・作者	内　　容	特　　徴
1	物語		「赤い花」 2004　朔北社 作：チェン・チーユエン	タイペイからピントンへいく電車で夢を見る。子供の頃友達と遊んでいた夢。家に帰って友達と別れる。母に赤い花を渡す。今の自分に戻る。墓に母にあげたのと同じ花を供える。	字がない。
2	物語		「島のみみずくトゥトゥウ」 2006　童心社 文・絵：何華仁 訳：中由美子	まだ飛べない子どものミミズクトゥトゥウが巣から落ちる。大きくなって飛べるようになり自分のすみかを見つける。	ランユイコノハズクの子どもが島の中で成長していく過程

3	物語		「ねずみのおよめいり」 1994　河出書房新社 作：モニカ・チャン 画：レスリー・リョウ 訳：高佩玲	ネズミ村の村長が娘に一番ふさわしいお婿さんをさがしていた。みんなに競争させていたとき猫が乱入。村長はこの世で一番強いものを探しにいき、ネズミはちっぽけに見えるが強い敵を打ち負かす力があることに気づく。	ちっぽけに見えても素晴らしい力をもっている。
4	物語		「きみのうち、ぼくのうち」 2006　岩崎書店 文：ヤン・ホアン 絵：ホアン・シャオイエン 訳：中由美子	自然界にはいろいろなうちがあるが風や雲などうちがないものがある。	うちがあるものは幸せ。
5	物語		「パラパラ山のお化け」 2006　岩崎書店 作・絵：ライマ 訳：中由美子	白豚のルルがお化けをみて山から転がり落ちた。村の人たちは自分を守ろうとした。ついてないことにちょっとした事故がたくさん起きた。ある日、お化けの正体はヤマアラシと分かったが、ちょっとした事故はしょっちゅう起こった。	あわてているときにちょっとした事故は起こる。
6	物語		「アティと森のともだち」 2005　岩崎書店 作：イエン・シュニュイ 絵：チャン・ヨウラン 訳：　中由美子	アティはおばあちゃんにもらった桜の花びらをもってアリ山へ。風に吹かれて飛んでいった花びらを追っていくと動物たちがいた。桜の精が病気らしく桜が咲かないらしい。花びらは桜の精の姿になる。アティの涙が桜の精に落ちると桜の精は元気になり無事、桜が咲き桜祭が行われた。	伝統を守る大切さ

7	物語		「ぼく、グジグジ」 2004　朔北社 作：チャン・チーユエン 訳：宝迫典子	アヒルとして育てられたワニのグジグジ。ある日、ワニたちにアヒルを橋の上に連れてくるよう言われる。グジグジは橋の上にアヒルを連れていくが石をワニに落としてやっつける。	姿形は違っても一緒にいるものの方が大事。
8	物語		「あわてんぼうさん」 2006　朔北社 作：ライマ 訳：宝迫典子	あわてんぼうさんは6時に始まる人形劇の主役。しかし起きたのは5時15分あわてて劇場に向かい支度をして舞台にでる。しかしあわてんぼうさんの舞台は明日だった。	時間に追われあわてふためく様子
9	物語		「おこりんぼうのアングリー」 2006　朔北社 作：ライマ 訳：宝迫典子	ある朝、蚊のポータンに刺されたアングリー。大声でほえると口から火が噴きだした。火は休むことなく吹き出した。アングリーは悲しくなり泣き出した。すると火が消えた。	怒っていても泣いて笑えば怒りがおさまる。
10	物語		「ナゼニ愛ハ・・・？」 2005　小学館 作・絵：ジミー〈幾米〉 訳：宝迫典子	子どもの頃の世界にあふれていたいろいろななぜについて問いかける。	約5分の2が2000年から2002年の「中国時報家庭生活週報」に掲載されたもの。

11	物語		「君といたとき、いないとき」 2001　小学館 作・絵；ジミー〈幾米〉 訳：宝迫典子	月がなくなり、人々は大騒ぎ。やがて小さな人工の月が作られる。そんな時ある少年が本物の月と出会う。2 人の間に友情が芽生える。しかし、友達が少年から離れていき、月も少年も孤独になった。そして、少年と月は闇を月の光で照らそうとする。一夜のうちに月は昔のことを思い出す。嵐が来て、月が好きだった傘の下で雨音を聞いていると、激しい風が月と少年を高く遠く吹き飛ばした。厚い黒雲をぬけると、そこでは喧騒は彼方へ去り、悩みは消えていた。そして少年は月に揺られて眠りについた。	悲しみを優しさが包み込む。
12	物語		「君のいる場所」 2001 小学館 作・絵：ジミー〈幾米〉 訳：宝迫典子	郊外のアパートに 2 人は住んでいた。しかし、彼女には左へ行く癖があり、彼には右へ行く癖があり、めぐり合うはずもなかった。お互い、人生につまらなさ、無力さを感じていたある日、2 人は公園で出会う。突然雨が降り、あわただしく電話番号を交換して別れた。しかし、雨のせいで、字がにじんで番号が分からなくなってしまった。連絡の取れないまま一年が経ち街を出た 2 人。雪の降る日 2 人は再会することができた。	日記のように日付が書かれている。ワーナーブラザーズで映画化された。全国学校図書館協議会選定図書。
13	物語		「地下鉄」 2001　小学館 作・絵：ジミー〈幾米〉 訳：宝迫典子	盲目の少女が閉じこもるだけの生活から一歩を踏み出し、地下鉄に乗り幸せを探す旅を始める。そして、少女の心にはかすかな光が輝き始めた。	ほぼすべてのページに動物が描かれている。

14	物語		「あなたが好き」 2005　ディスカヴァー・トゥウェンティワン 絵：タンタン〈唐唐〉 文：ジュリエット〈茱麗葉〉 訳：宝迫典子	「あなた」の好きなところも見方を変えれば嫌いなところになってしまう。でも、好きになるのも嫌いになるのも理由はすべて同じ。	すべて動物に例えられている
15	物語		「いすになった木」 1999 PHP 研究所 作：梁 淑玲 訳：宝迫典子	巨人のエイトの花園にあった我儘で自分勝手な一本の変な木。ある日、散歩していたエイトが、いすの形をした木に座って休んだ。「なんて気持ちが良いんだろうねぇ」と初めて人からほめられた木は嬉しくなった。エイトはそれからもよくいすの木に来るようになり木はエイトを待ちわびるようになった。木はみんなに優しくなり、みんなから慕われるようになった。木はエイトのお気に入りだけでなく、みんなに幸せを分けてくれる木になった。	第20回北海道冬休み読書大賞推薦図書　第44回西日本読書感想画コンクール指定図書
16	物語		「たね、ぺっぺっ」 2001 PHP 研究所 作・絵：李 瑾倫 訳：宝迫典子	食べることが好きなぷくちゃん。パパイヤを種も残さずたべてしまう。種を食べたらどうなるのだろうと話していると、1 人が「木が生えてくるよ」という。ぷくちゃんはまっさおになり泣きだしてしまった。みんなから笑われるところが浮かぶ。でも、歩ける木は他にないので、楽しい気分になってくる。翌日、頭を触っても木がなかったけれど、お腹がぐるぐる言い出した。水を流そうとしたとき、黒い粒が混じったパパイヤに似たまるいうんちを見つける。そして木は生えてこないけど生えてきたパパイヤがおいしくなかったらヤだもんねとつぶやいた。	プラス思考。

（５）絵本に見る各国の特徴

外国語に翻訳する絵本の選択基準に “翻訳に値する内容を持っている絵本”“自国の絵本の代表作として外国に紹介したい絵本”と判別された作品であろうと考えられる。そうした翻訳絵本には、自ずと各国の文化が特徴として表れている。絵本に期待する事柄や子どもの生活の実態が絵本から読み取れる。各国から特徴ある絵本を選び、それらを比較し考察していく。

① 日本の翻訳絵本

日本の絵本は世界的にも高い評価を得ている。まずは、1960～1970 年代にボローニャやフランクフルトでのブックフェアへの出品からヨーロッパを中心に拡がっていった。岩崎ちひろ、中谷千代子・岸田衿子(「かばくん」[10]他)、中川李枝子・大村百合子（「そらいろのたね」[11] 他)、石井桃子らの作品が翻訳された。1980～1990 年代では、岩村和朗の「１４ひきシリーズ」[12] やいもとようこの「こねこちゃんえほん」[13] 等の動物ものの他、「かがくのとも」など科学絵本も多く翻訳されるようになった。この頃になると、アメリカ・フランス・イギリス・ドイツでの出版がピークとなりアジアでの出版が増える。1 位が韓国、2 位が台湾である。2000 年代の出版では、欧米ではフランス以外の国が減少し、言語の壁の低いアジアがますます伸びて 1 位韓国、2 位台湾、3 位中国、4 位インドネシアと続く。アジア諸国ではファンタジー絵本や幼年童話も多く翻訳されている。

今回選んだ 26 冊のうち、絵本分類の項目では、物語（11 冊)、生活（6 冊)、科学（4 冊)、昔話（2 冊)、もの（1 冊)、うた・詩（1 冊)、仕掛け（1 冊）であった。今後、ますますグローバリゼーションが進む中、最も多いのは物語絵本であり、次に「生活」や「科学」となっており、「昔話」は多くはない。アジアの歴史を踏まえつつ、それぞれの国の子ども達が互いを理解する教材の一つとして絵本の活用が望まれる。

② 韓国の翻訳絵本

26 冊のうち、絵本分類の項目では、物語（14 冊)、昔話（7 冊)、生活（4 冊)、科学（1 冊）であった。もの、詩、仕掛けの絵本は見られなかった。最も多い物語の特徴として、子どもへの期待の透けて見える内容が多く見られた。

「かわべのトンイとスニ」[15] では“年長者の責任と兄弟愛”、「ヨンイのビニールがさ」[16] では“親切”と“報恩”、「こいぬのうんち」[17]「あかてぬぐいのおくさんと７にんのなかま」[18] では“人の役にたつこと”、「石をとらえたお役人」[19] では“勧善懲悪”、など何らかの教訓が込められている。その他には「うさぎのおるすばん」[20]「ふわふわくもパン」[21] のようなファンタジーなお話や「山になった巨人―白頭山ものがたりー」[22]「ヘチとかいぶつ」[23] の昔からのいわれから創作した作品もある。昔話では、「水宮歌」[24]「トッケビとこんぼう」[25] は竜宮城や鬼など日本でも馴染み深いものが登場し、文化的に共通点の多いことに気付く。生活では「ソリちゃんのチュソク」[26] で田舎のお盆、「ソルビニ　ーお正月の晴れ着―」[27] で伝統的な正月の晴れ着の説明と着つけ、「きょうはソンミのうちでキムチをつけるひ」[28] でキムチの作り方など、韓国の伝統文化を紹介している。これは“田舎のお盆に親戚が集まらなくなった”“洋服文化が一般的になった”“キムチを集団で漬けるのでなく、買うようになった”という現代の生活変化への危機感であり、警鐘ともとれる。絵本を通して、子どもに伝統文化を継承していって欲しいと訴えていると考えられる。科学絵本の「パパといっしょに」[29] では、父親が娘に自然についてさりげなくレクチャーしている。これらの韓国の絵本全般から、年長者への尊敬と年少者への責任、家族の伝統的結びつき、孝行や信義，礼儀を重んじることが伝わってくるのが大きな特徴と言える。

その他にも、韓国での翻訳には「うちにあかちゃんがうまれるの」[14] 以外にも、性教育や性被害を防止するための安全教育の絵本、さらに男女共同参画を学べる絵本などが多く見られる。これは、伝統的な儒教的価値観が薄まり、女性の地位向上や、性暴力被害者支援の動きに連動していると考えられる。

③ 台湾の翻訳絵本

台湾の絵本で、日本に翻訳されている作品は多くはない。しかし、個性的な絵本があり面白い。「赤い花」[30] では文字がなく絵だけでお話をすすめていき、「パラパラ山のお化け」[31] では１頁に複数場面が描かれている。「おこりんぼうのアングリー」[32] でも、大きな絵の中に小さなコマがあり仕掛け絵本となっている。こうした特徴の絵本は日本や欧米諸国でも見られ、共通点は多い。外国の絵本からの影響も素直に受入れて、様々なタイプの絵本が作られる自由さが感じられる。

16 冊のうち、物語（14 冊)、昔話（1 冊)、仕掛け（1 冊）であった。作者別に見れば、ジミー（4

冊)、ライマ（3 冊)、チェン・チーユエン（2 冊）と 3 人の作家で過半数を超えている。ジミーの作品は、いわゆる大人向け絵本であり、游珮芸[33] によれば、「ジミー現象」といわれるブームが起こったという。「パラパラ山のお化け」「おこりんぼうのアングリー」等の作者であるライマの作品には、動きが感じられ、ところどころに遊びとしての仕掛けもある。「赤い花」の作者であるチェン・チーユエンの作品には、読み手の想像力をかきたてる思いや構想が込められている。こうした特徴の絵本は日本や欧米諸国でも見られ、これらと共通点も多い。外国の絵本からの影響も素直に受け入れ様々なタイプの絵本が作られる自由さが感じられる。成實朋子[34] は、台湾の絵本がこのように自らの個性を発揮するに至るまでの変遷について述べている。

ここでは、日本・韓国・台湾の絵本の特徴について調べてきた。それらの絵本へ期待している内容からは、子どもの実態が透けて見える。現在の子どもにないもの、希薄になりつつあるもの、もちつづけてほしいものが、期待となって絵本に込められている。

日本の絵本の水準は国際的に見ても、決して低くはない。むしろ、レベルは高く日本の絵本はアジアにおいてはリーダー的存在でもあった。昔話や物語も子どもの特性をとらえながら、楽しいお話の絵本作りがなされている。特に自然科学に関する絵本は、国際的にも高い関心を示され韓国や台湾で翻訳されたものも多い。

韓国は、大層教育熱心な国として有名である。そのため、児童図書の出版も盛んで近年では韓国絵本の評価も高まってきている。しかし、日本に限らず海外の評判の良い絵本もどんどん受け入れているのは、子どもの教育の為とも考えられる。日本の「自然科学シリーズ」の月刊誌が、そのまま韓国でも月刊誌として出版されていることからもそう言えよう。写真による動物の生態を紹介した「タテゴトアザラシのおやこ」[35]（福田幸弘:写真、結城モイラ:文)も、ストーリー性を持たせた科学絵本である。しかし、特に人気が高いという絵本「おつきさまこんばんは」[36]（林明子：作）や「りんごがドスン」[37]（多田ヒロシ：作・文・絵)は、月や果物の科学的絵本と言うよりファンタジー絵本といえるし、「キャベツくん」[38]（長新太:文・絵)のナンセンスな面白さ、「ドオン！」[39]（山下洋輔:文、長新太:絵)のような感覚的な絵本も、あまり韓国の教育熱とはそぐわないように見える。「窓際のトットちゃん」[40]（黒柳徹子:作）がブームとなったことを考えると、現実の教育状況に奔走しながらも一方では韓国らしくない自由さをも求めているように受け止められる。その他、韓国で大人気の「一杯のかけそば」[41]（粟良平・作）TV 番組「おしん」の人気の延長上にあるともいえる「はじめてのおつかい」[42]（筒井頼子:作、林明子:絵）で家族の絆と躾教育をしっかり伝えているという韓国のバランス感覚が読み取れる。

台湾は、韓国に比べて感覚的にずっと日本に近いと思われる。つまり、韓国の持つ根強い儒教的な意識や教育的な意図が感じられない。「まあちゃんのながいかみ」[43]（たかどのほうこ：作)「すてきなずぼん」[44]（いもとようこ：作・絵)「ねずみくんのプレゼント」[45]（なかえよしを：作、上野紀子:絵)のように、子どもの気持ちそのままのような素直で楽しいお話が受け入れられている。子どもの知識を深めたいし、躾教育に役立てたいと言った教育意識が透けて見えることがない。自由に伸び伸びと育つことを願っているようである。

３．おわりに

絵本には、その国の子どもに託した希望が凝縮されていることが明らかとなった。そして、日本の絵本の素晴らしさが改めて認識される結果ともなった。さらに、韓国と台湾の絵本にみる子どもの育成の指針から、日本の子どもの状況を振り返る機会ともなった。現在の日本の子どもが、アジアの中で尊敬される存在になり得るための指針を韓国と台湾と比較したい。韓国に見られた規範性は、日本の子どもにも根付いているであろうか。台湾に見られた心の自由さが、日本の子どもにも育っているであろうか。絵本の活用を通して、子どもにどのように働きかけ、何を育成していくべきか。今後の課題として、韓国や台湾の絵本活用を実際に確認し、取り入れたい点や改良すべき点について研究していくことが望まれる。

注：参考文献

１）　松村敦、杉七瀬、宇陀則彦「読み聞かせ時の反応に着目した絵本に対する子どもの好みの取得方法に関する検討」　日本教育工学学会論文誌 32　2008

２）　今井靖親・寥小慧・中村年江「日本と台湾における絵本の望ましい読み聞かせ方法に関する比較」奈良教育大学紀要（人文・社会科学系）　1993
３）　藤本朝巳「絵本の分類化序論（１）『絵』と『ことば』の機能」　フェリス女学院大学文学部紀要 2005
４）　「日本・中国・韓国の昔話集１」日中韓子ども童話交流事業実行委員会　2004
５）　「日本・中国・韓国の昔話集２」日中韓子ども童話交流事業実行委員会　2004
６）　「日本・中国・韓国の昔話集３」日中韓子ども童話交流事業実行委員会　2004
７）　国立国会図書館国際子ども図書館「日本発・子どもの本、海を渡る」　2011
http://www.kodomo.go.jp/anv10th/publishing/index.html
８）　「韓国昔話　上・下」白水社　2006
９）　張桂娥　「台湾における日本の子ども絵本の受容概要とその意義－台湾絵本の今:「圖畫書」時代から『繪本』時代へ－」　論文集「台湾の絵本」　大阪国際児童文学館　2007
１０）　中谷千代子、岸田衿子「かばくん」福音館　1966
１１）　中川李枝子、大村百合子「そらいろのたね」福音館　1967
１２）　岩村和朗「１４ひきシリーズ」童心社　1983
１３）　いもとようこ「こねこちゃんえほん」　金の星社　1982
１４）　いとうえみこ、伊藤泰寛「うちにあかちゃんがうまれるの」ポプラ社　2004
１５）　キム・ジェホン「かわべのトンイとスニ」小学館　2007
１６）　ユン・ドンジェ、キム・ジェホン「ヨンイのビニールがさ」岩崎書店　2006.5.30
１７）　クオン・ジョンセン、チョン・スンガク「こいぬのうんち」　東京印書館　2000
１８）　イ・ヨンギョン　「あかてぬぐいのおくさんと７にんのなかま」福音館書店　2010
１９）　チャ・ミジョン、ハン・チャンス「石をとらえたお役人」少年写真新聞社　2005
２０）　イ・ホベク「うさぎのおるすばん」平凡社　2003
２１）　ペク・ヒナ「ふわふわくもパン」「ふわふわくもパン」小学館　2006
２２）　リュウ・チェスウ「山になった巨人―白頭山ものがたりー」福音館書店　1988
２３）　チョン・ハンプ、ハン・ビュンホ「ヘチとかいぶつ」アートン　2004
２４）　イ・ヒョンスン「水宮歌」アートン　2004
２５）　チョン･チャジュン･「トッケビとこんぼう」はじめのはなし-つづきのななし 平凡社 2003
２６）　イ・オクベ「ソリちゃんのチュソク」セーラー出版　2000
２７）　ペ・ヒョンジュ「ソルビニ　―お正月の晴れ着―」セーラー出版　2007
２８）　チェ・インソン、パン・ジョンファ「きょうはソンミのうちでキムチをつけるひ」精興社　2005
２９）　イ・サンクォン「パパといっしょに」　アートン　2004
３０）　チィエ・チーユエン「赤い花」　朔北社　2006
３１）　ライマ「パラパラ山のお化け」　岩波書店　2006
３２）　ライマ「おこりんぼうのアングリー」朔北社　2006
３３）　游珮芸　「台湾における『ジミー現象』」　論文集「台湾の絵本」　大阪国際児童文学館　2007
３４）　成實朋子「中国語圏児童文学の中における『台湾絵本』－歴史的なうねりの中でー」論文集「台湾の絵本」　大阪国際児童文学館　2007
３５）　福田幸弘、結城モイラ「タテゴトアザラシのおやこ」ポプラ社　2001
３６）　林明子「おつきさまこんばんは」福音館　1986
３７）　多田ヒロシ「りんごがドスン」文研出版　1976
３８）　長新太「キャベツくん」文研出版　1980
３９）　山下洋輔、長新太「ドオン！」福音館　2007
４０）　黒柳徹子「窓際のトットちゃん」講談社　1981
４１）　栗良平「一杯のかけそば」栗っこの会　1988
４２）　筒井頼子、林明子「はじめてのおつかい」福音館　1977
４３）　たかどのほうこ「まあちゃんのながいかみ」福音館　1995
４４）　いもとようこ「すてきなずぼん」金の星社 1982
４５）　なかえよしを、上野紀子「ねずみくんのプレゼント」ポプラ社　2004

Abstract

This study aims to analyze the possibility of utilizing picture book in fostering children who live in globalized society, based on the comparison of picture book of Japanese, Korean, and Taiwanese. The authors analyze about 20 books, which are Korean and Taiwanese picture books translated in Japanese and Japanese picture books translated in Korean and Taiwanese. Japanese picture books are highly valued on international basis, and many of them are translated in Korean, Taiwanese, and Chinese. Japanese picture books have many kinds of types, such as story, life and science. A lot of Korean picture books have Confucian value and educational intention. There are not many Japanese-translated Taiwanese picture books, but they have freedom to make various kinds of picture books. In conclusion, there is condensed hope which is entrusted to each country's children in picture books.

As the future issue, the authors need to research how the canonicity in Korean picture books and the freedom in Taiwanese picture books are utilized in real situation, and research receptive point and improvable point in utilizing picture book in Japan.